

はじめに

序章：「あこがれ」の背景の考察と可視化—本書の構成 後藤治

【 第一部 歴史のなかの「あこがれ」の住まいと暮らし—その形成と変貌 】

第一章：平等へのあこがれと和室の誕生 藤田盟児

1. 武士の生活様式
2. 座敷の形式
3. 会所から茶室へ

第二章：侘数寄の茶室は「あこがれ」から始まった 桐浴邦夫

1. 黒木造
2. 茶の伝来と異国へのあこがれ
3. 自然に囲われた空間と平等
4. 本数寄の茶の湯空間
5. 市中の山居
6. 侘数寄の茶室

第三章：インド・ムンバイにおけるアールデコ様式住居へのあこがれ 後藤克史

1. コロニアルボンベイ、ペストの流行、都市計画
2. ハウジング問題、ペストの流行、ボンベイ市改善局の設置、都市計画
3. テネメント、アパートメント居住、衛生管理
4. アールデコ様式のアパートメント、女性の地位

【 第二部 現代日本の住まいと暮らし—「あこがれ」のカタチ 】

第四章：都市の住まいと暮らしから〈あこがれ〉を考える 山本理奈

1. これからの住まいと〈あこがれ〉
2. 「あこがれ」の変容
3. 居住の営みがうみだす〈あこがれ〉
4. 〈あこがれ〉を構成する社会的価値
5. 〈あこがれ〉のゆくえ

第五章：日本とデンマークの比較でみる「幸福な住まい」のつくりかた 島原万丈

1. 日本・デンマーク住生活比較調査
2. あこがれと住むことの幸福に関する考察

第六章：外国人から見た「和」の住まい 鈴木あるの

1. 古き良き日本
2. 日本文化の没落
3. 日本建築の国際化
4. 現代の外国人に聞く
5. 「あこがれ」のその先に

【 第三部 これからの住まいと暮らしーあこがれから流行への種と形を探る 】

第七章：あこがれの対象としての環境配慮型住宅 小泉雅生

1. 近代における環境配慮型住宅
2. 現代の環境配慮型住宅
3. 環境配慮型住宅のこれから

第八章：住人の住居史・抄 伏見唯

広島・吉島町の生家／広島・袋町の町家／
東京・画家たちのアトリエ／東京・椎名町の中廊下型住宅／
広島・左官町の本家／広島・左官町の伯父の家／
広島・十日市の寺院本堂／広島・八木の二ワトリ小屋／
東京・高円寺の和洋折衷／千葉・津田沼の公団住宅／
東京・大和町の家／イギリスとニューヨークでの住体験／
東京・阿佐ヶ谷南の家／令和の今、あこがれているもの

第九章：高次元に拡張する「くらし」 豊田啓介

1. メタバースがバズワードに。その定義と価値は？
2. 実空間から拡張するくらし：コモングラウンドとは何か
3. 空間記述の多様化と広域体系化というチャレンジ
4. 人を超える属性の拡張
5. ヒト、自己、場所の領域性
6. 同一性という概念の発展的拡張と、同時性という概念の再価値化
7. モノ／場所の束ねる力、すなわちハイ・モダリティの統合

むすびに：カタチのもつ力と次世代のあこがれ 後藤治

あこがれと流行を形成する社会背景

カタチの持つ力：あこがれから流行への展開

「環境への配慮」とカタチ

希薄化する日本人の「住まい・暮らし」

コロナ禍後の「住まい、暮らし」